

## 2022(令和4)年度 法学類演習シラバス(掲示用)

授業科目名: 法理学演習	担当教員名〔ローマ字表記〕: 足立 英彦〔ADACHI Hidehiko〕	
曜日・時限: 月曜・5限	対象学年: 3・4年	募集人数: 12名
授業の主題・目標: 死刑に関する諸問題		
<p>授業内容:</p> <p>日本は死刑を維持している数少ない国です。近年も毎年数名から十数名の死刑囚の死刑が執行されています。しかも日本は民主主義国ですので、私たち有権者は(間接的にですが)死刑の執行に関わっているとと言えます。2022年度の法理学ゼミでは、この死刑制度について考えます。</p> <p>死刑制度の賛成論の論拠としては、応報論、世論による支持、最高裁判例、犯罪抑止力、遺族の心情などがあります。反対論の論拠としては憲法36条(残虐な刑罰の禁止)、国際的潮流や国際関係、誤判の可能性、犯罪者の更生可能性、死刑囚の処遇などがあります。このように多数の論点があり、死刑について考えるためには、法学の枠にとらわれずに様々な学問分野の研究成果を、また外国の状況等をも踏まえる必要があります。ゼミの参加者には、特に自分が関心を持てる分野や論点を選んで研究を進めていただきたいと思います。</p> <p>前期は死刑に関する本・論文をいくつか選び、参加者で分担してその内容を報告してもらい、みんなで議論をしていきます。後期は各自が選んだ論点について研究を進め、その内容を報告していただきます。ゼミ初年度(おもに3年生)は最後に自分の論点についてのレポートをまとめ、提出していただきます。ゼミ2年目の方には卒業論文を提出していただきます(死刑以外のテーマでも可です)。なお、在学中の派遣留学・休学等には柔軟に対応します。</p> <p>すべての法学類生の履修を歓迎しますが、当ゼミでは卒論(6単位)を書いていただきますので、とくに総合法学コースの方には、選択必修枠も埋められて一石二鳥ではないかと思います。</p>		
教科書・教材:	参考書: 児玉聡『実践・倫理学:現代の問題を考えるために』(勁草書房、2020年)、デイビッド・T・ジョンソン『アメリカ人のみた日本の死刑』(岩波新書、2019年)	
関連科目: 法理学、憲法、刑法、刑事訴訟法、刑事政策、国際法、政治思想史	評価の方法: 出席とゼミへの貢献度(報告と発言)、レポート(ゼミ1年目の方のみ)を基に評価します。	
履修上の注意事項や学習上の助言: 1年目の最後にレポートを、2年目の最後に卒業論文を提出していただきます。過去の卒業論文は私のWeb( <a href="https://law-kanazawa.info/theses/">https://law-kanazawa.info/theses/</a> )に掲載しています。		
<p>学生からの演習に関する質問への対応方法:</p> <p>① 随時可能 ② オフィスアワー(授業期間中の火曜日昼休み) 人社2号館763 ③ E-mail(hadachi@staff.kanazawa-u.ac.jp) ④ 電話(076-264-5383) ⑤ その他(オフィスアワー以外も在室時は対応します。Zoom可。)</p>		
受講者数調整方法: 定員を超えた場合は志望理由書と成績に基づき選考します(これまで定員を超えたことはありません)。		